

トヨタ純正

リヤスポイラー

取付要領書

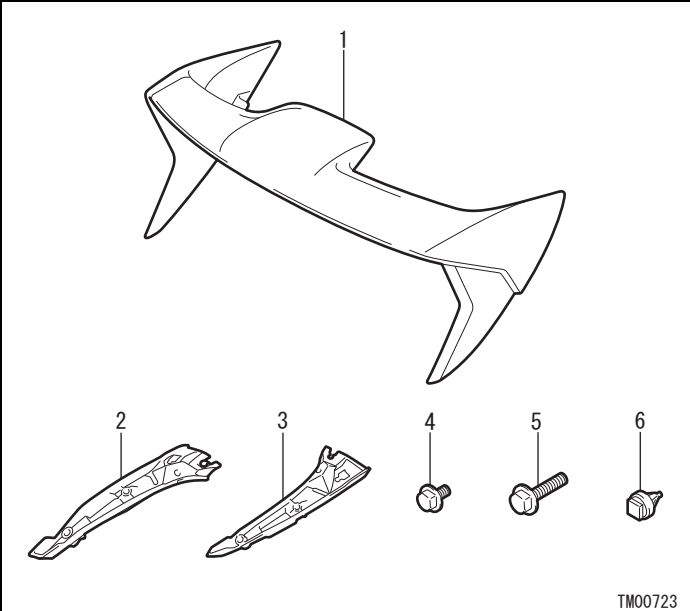
このたびは、トヨタ純正「リヤスポイラー」をお買いあげいただきありがとうございました。
本書は、「リヤスポイラー」の取り付け要領について記載してあります。
取り付け前に必ずお読みいただき、正しい取り付けをしてください。

品番

PT938-12230-02


構成部品

No	品名	品番	個数
1	リヤスポイラー	-	1
2	ブラケットアダプター (LH)	-	1
3	ブラケットアダプター (RH)	-	1
4	ボルト (M6×L10)	-	5
5	ボルト (M5×L30)	-	4
6	クリップ	-	6



※ 本製品の取り付けには、別品番の部品が必要です。

品名	品番	個数
インテリアカバー	90333-48001	2

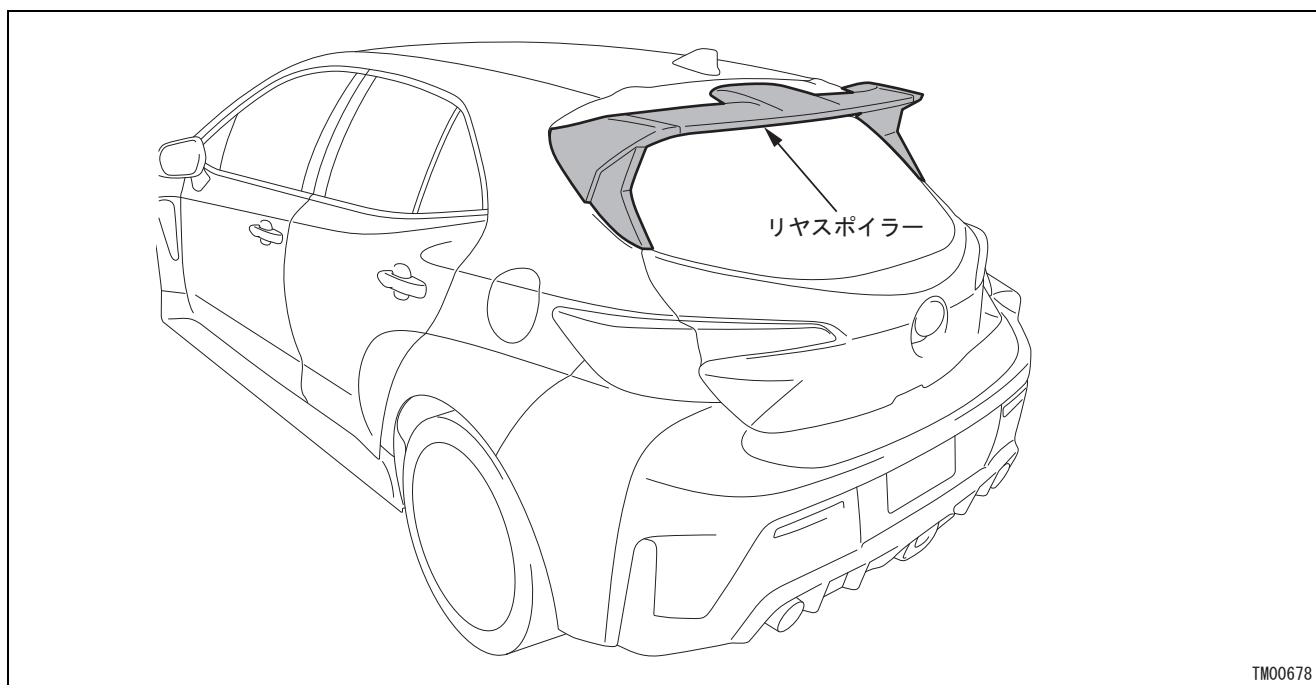


取り付け上の注意事項

△警告	記載事項を守らないと生命にかかわるような重大な傷害、事故につながるおそれがあることを表します。
△注意	記載事項を守らないと、傷害、事故につながるおそれがあることを表します。車両や製品の故障、破損を防ぐために守っていただきたいことを表します。
👉アドバイス	作業をスピーディおよび容易にするための補足説明を表します。

1. 車両を水平な場所に停車して車輪止めにより車両が動かないようにしてください。
2. 本文中の取り付け上の △警告、△注意、👉アドバイスは、必ず取り付けに反映させて作業をしてください。
3. 車両部品の取りはずしに際して、タッピングスクリューやボルト、ナット類の紛失や混乱がないように部品ごとに整理して、復元する際に間違えないよう配慮してください。また、傷を付けたりしないように取り扱いに注意して作業をしてください。
4. 本書で指示した以外の車両部品を取りはずさないでください。
5. バッテリー復元作業終了後に、車両機能部品の初期化が必要な部品がありますので、必ず初期化作業をしてください。
6. 取り付け作業は、必ずほこりのたたない屋内でしてください。
7. 気温が 15℃以下のときは、両面テープの接着力が低下しますので貼り付け面をドライヤー等で温めてください。
8. 両面テープを貼り直したり、剥がしたりすると、粘着力が低下し脱落や剥がれの原因になりますので、貼り直したりしないでください。
9. 貼り付け面に油脂分や汚れが付いている場合、脱落や剥がれの原因になりますので、脱脂剤等で十分に拭き取り脱脂してください。
10. 脱脂剤等を使用する場合、火気に十分注意してください。

取り付け概要



取り付けに必要な工具

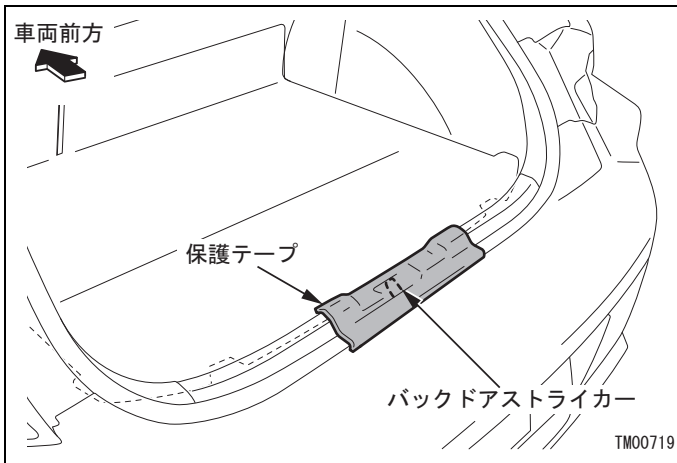
一般工具、保護テープ、はさみ、ケガキ針、ドリル刃（φ3、φ8、φ9、φ10）、ホールソー（φ20）、電動ドリル、保護めがね、ケブラ手袋、トルクレンチ、ビニールシート等、メジャー、ヤスリ、ガムテープ、マスキングテープ、脱脂剤等、ウエス、ドライヤー（15℃以下の場合）

△注意

ホールソー（φ20）は先端のドリル刃がφ9以下のものを使用してください。

φ9より太いドリル刃のホールソー（φ20）を使用した場合、意匠面のφ10穴が大きくなり、リヤスポイラーが取り付けできないおそれがあります。

取り付け要領



1. バッテリー（-）端子の取りはずし

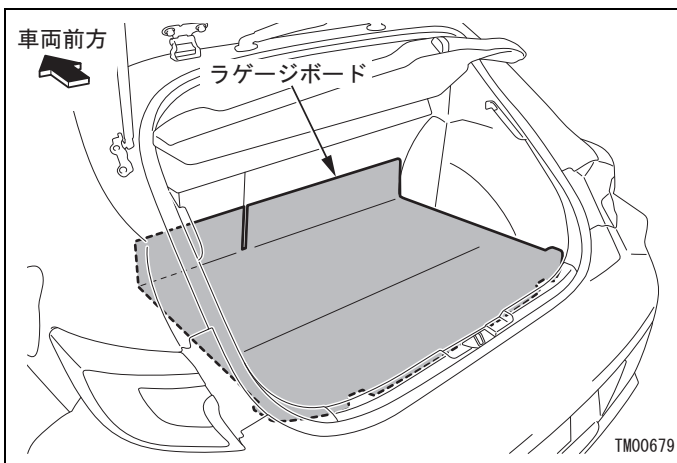
- （1）バックドアを開く。
- （2）バックドアストライカーを覆うように保護テープを貼り付ける。

△注意

本作業はバックドアが完全に閉じないようにするための作業です。

バッテリーの（-）端子を取りはずすと、バックドアのロックを解除できなくなります。

作業中にバックドアがロックされた場合、バッテリーの（-）端子を接続し、ドアアンロック操作をすることでバックドアのロックを解除することができます。

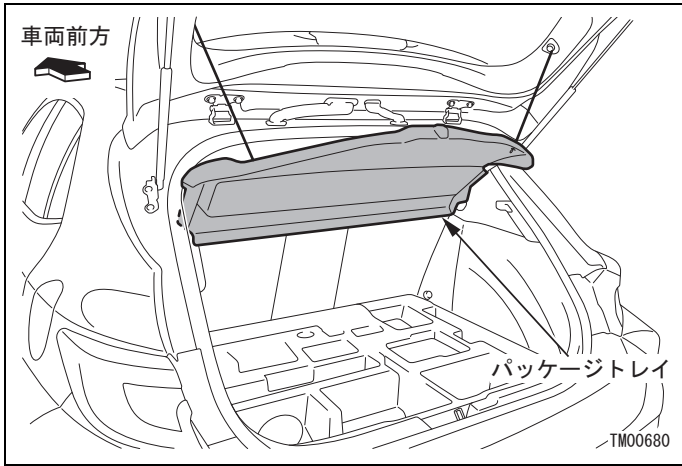


- （3）ラゲージボードを取りはずす。

- （4）バッテリーの（-）端子を取りはずす。

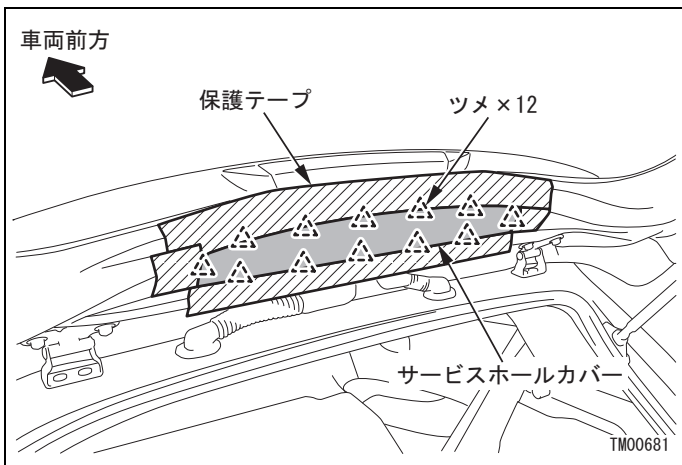
△警告

バッテリーの（-）端子をはずさずに作業をして、ショートした場合、傷害、火災および車両や製品の故障、破損の原因につながるおそれがあります。



2. 車両部品の取りはずし

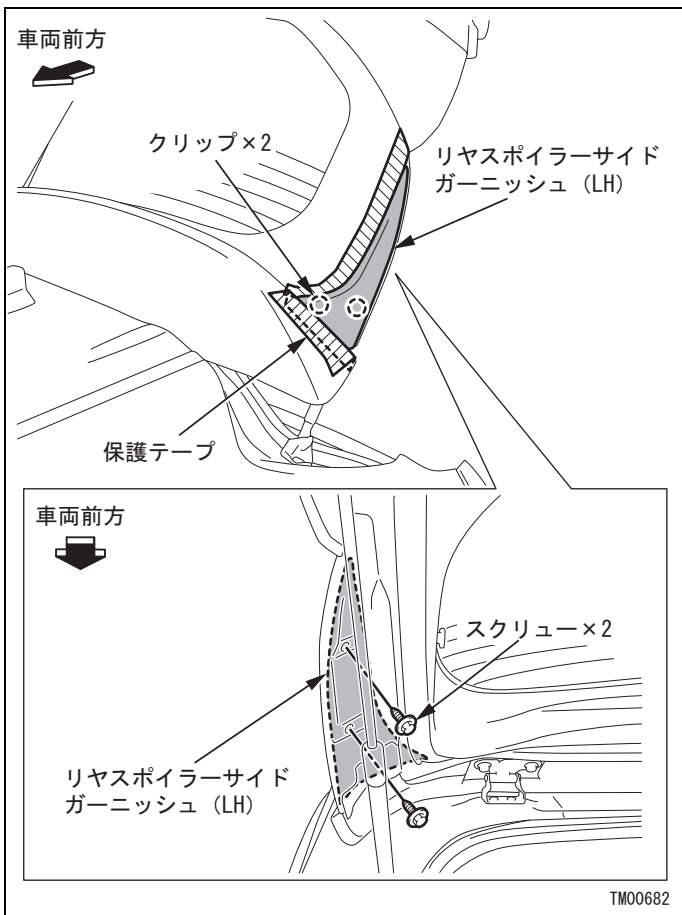
(1) パッケージトレイを取りはずす。



(2) サービスホールカバー (ツメ 12箇所) を取りはずす。

△注意

車両に傷が付かないように、保護テープを左図の位置に貼ってください。
(車両部品に傷が付くおそれがあります。)



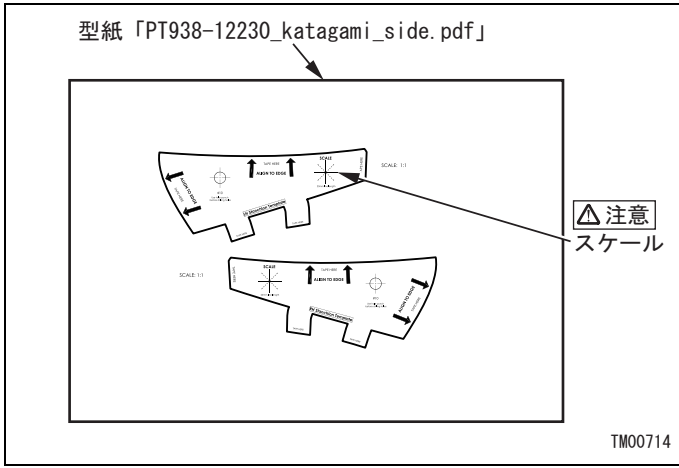
(3) リヤスポイラーサイドガーニッシュ (RH、LH) (スクリー 2本、クリップ 2箇所) を取りはずす。

△注意

車両に傷が付かないように、保護テープを左図の位置に貼ってください。
(車両部品に傷が付くおそれがあります。)

👉 アドバイス

- ・左図は左側を示しますが、右側も同様に作業をしてください。
- ・取りはずしたリヤスポイラーサイドガーニッシュ (RH、LH) およびスクリーは再使用しません。



3. 車両部品の加工

- (1) 型紙「PT938-12230_katagami_side.pdf」をWEBサイトからダウンロードし、拡大・縮小せずにA3サイズまたはA4サイズで印刷する。

👉 アドバイス

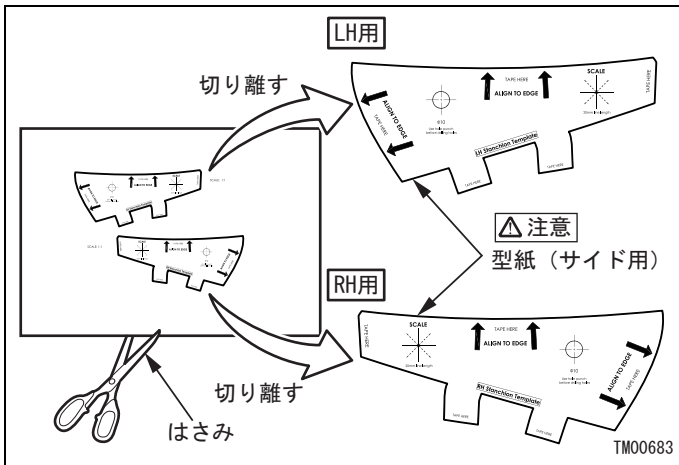
以降の作業は型紙「PT938-12230_katagami_side.pdf」を型紙（サイド用）と記載します。

- (2) 印刷後、印刷した型紙（サイド用）のスケールを実測し、拡大・縮小されていないことを確認する。

▲注意

拡大・縮小された型紙（サイド用）は使用しないでください。

[拡大・縮小された型紙（サイド用）を使用した場合、穴あけ位置がずれてリヤスポイラーを正しく取り付けることができません。]

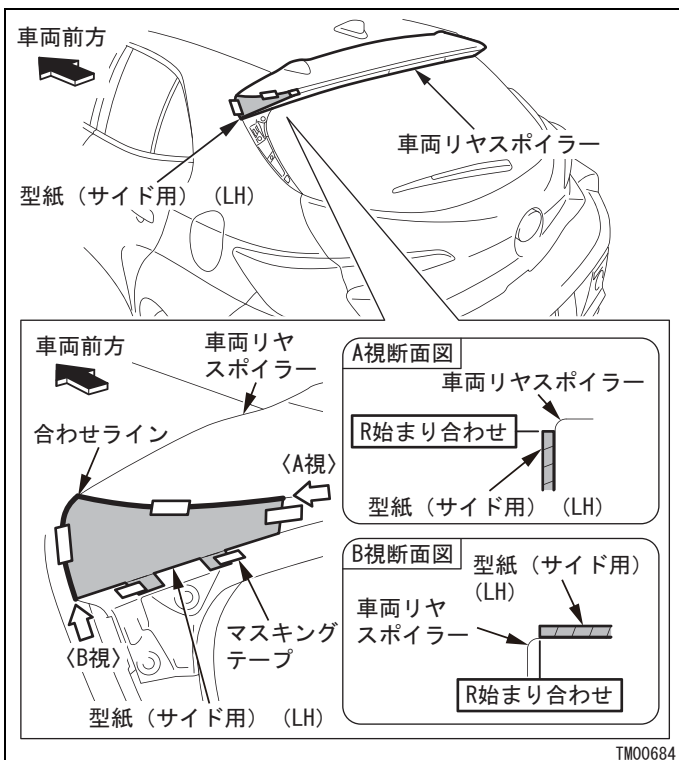


- (3) 型紙（サイド用）をはさみで切り抜く。

▲注意

型紙（サイド用）の枠線が型紙（サイド用）側に残るように切り抜いてください。

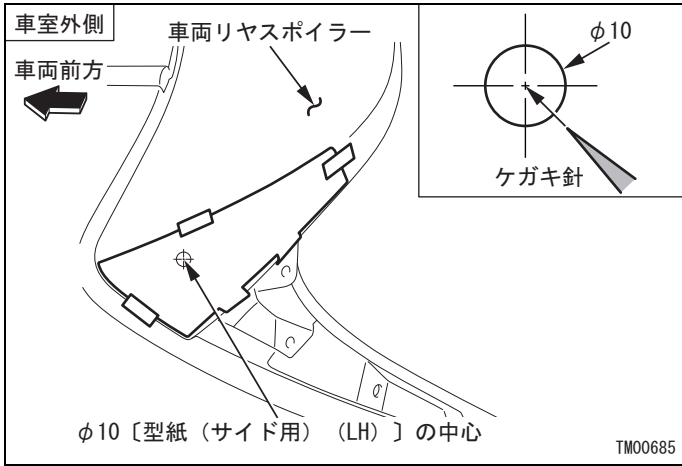
(枠線が残らないように切り抜いた場合、穴位置がずれてリヤスポイラーが取り付けできないおそれがあります。)



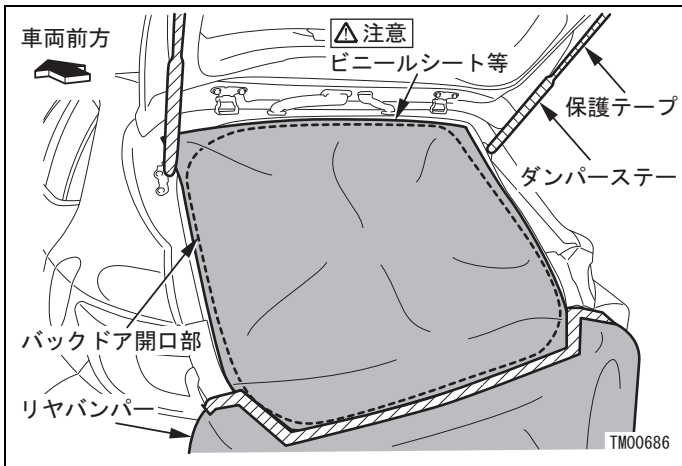
👉 アドバイス

- (4) ~ (13) は左側を示しますが、右側も同様に作業をしてください。

- (4) 型紙（サイド用）（LH）を車両リヤスポイラー側面にあてがい、ずれないようにマスキングテープで固定する。

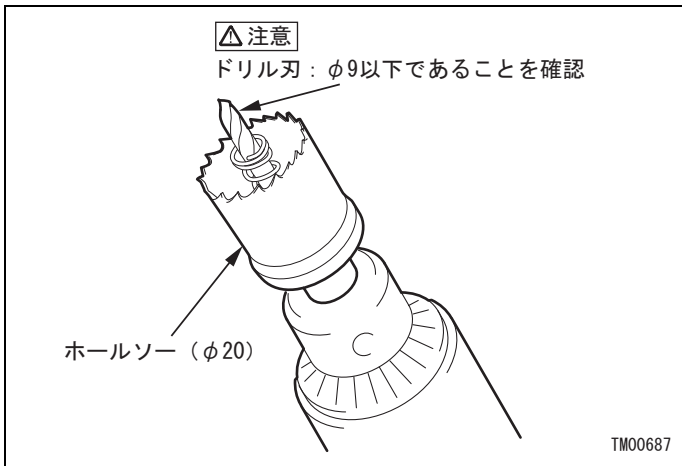


(5) φ10 [型紙 (サイド用) (LH)] の中心にケガキ針で印をつける。



- (6) バックドアを開く。
- (7) ダンパーステーに保護テープを貼り付ける。
- (8) ビニールシート等をリヤバンパーおよびバックドア開口部に被せる。

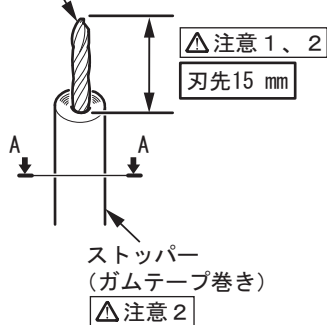
注意
 以降の作業はビニールシート等を被せて作業をしてください。
 (ビニールシート等を被せないで作業をした場合、車両への傷つきおよび切り粉が車内へ入り込むおそれがあります。)



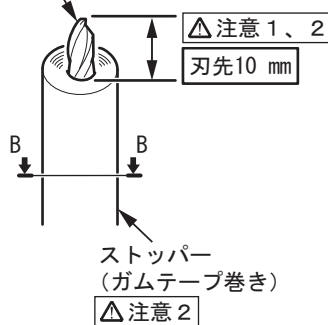
注意
 ホールソー (φ20) は先端のドリル刃が φ9 以下のものを使用してください。
 [φ9 より太いドリル刃のホールソー (φ20) を使用した場合、意匠面の φ10 穴が大きくなり、リヤスポイラーが取り付けできないおそれがあります。]

刃先寸法を確認して作業

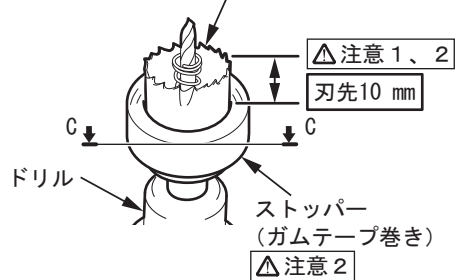
ドリル刃 (φ3)



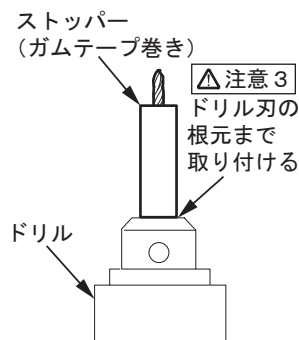
ドリル刃 (φ10)



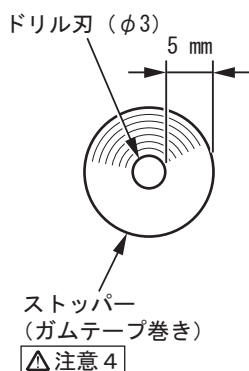
ホールソー (φ20)



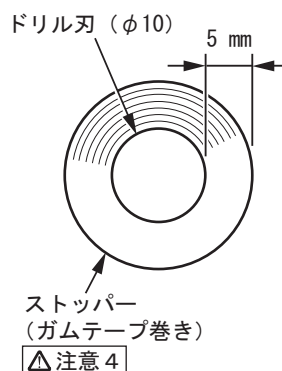
ストッパー (ガムテープ巻き)
の取り付け位置



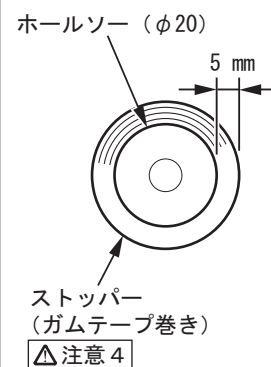
A-A断面



B-B断面



C-C断面

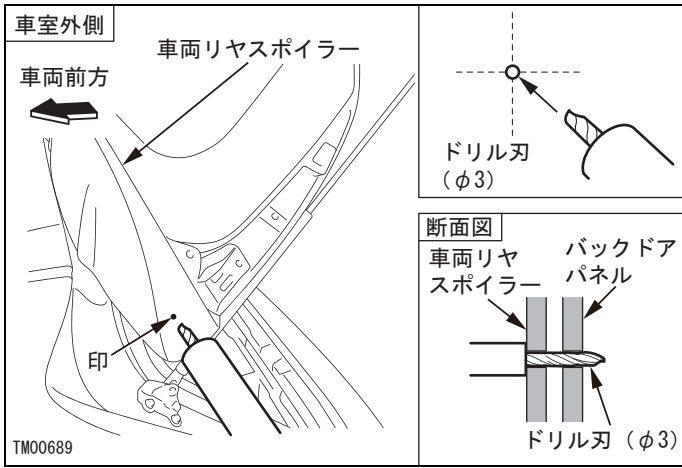


TMO0688

(9) ストッパー (ガムテープ巻き) をドリル刃 (φ3)、ドリル刃 (φ10) およびホールソー (φ20) に取り付ける。

△注意

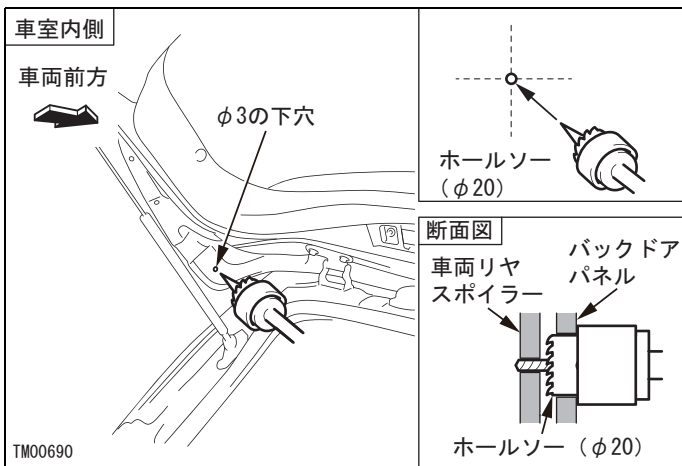
- ドリルおよびホールソーで穴あけ作業をする前に、ドリルおよびホールソーの刃先が 10 mm または 15 mm になるように、ストッパー (ガムテープ巻き) を取り付けてください。
(ストッパーを取り付けずに、穴あけ作業をすると、バックドアパネルを傷付けるおそれがあります。)
- ドリルおよびホールソーで穴あけ作業をする前に、ドリルおよびホールソーの刃先が 10 mm または 15 mm 以上になっていないことを確認してください。
[何度も使用している場合、ストッパー (ガムテープ巻き) がたわみ、刃先寸法が長くなりバックドアパネルを傷付けるおそれがあります。]
- ストッパー (ガムテープ巻き) を取り付ける際、ドリル刃の根元まで取り付けてください。
(根元まで取り付けなかった場合、バックドアパネルを傷付けるおそれがあります。)
- ストッパー (ガムテープ巻き) の厚みが 5 mm になるように取り付けてください。
(厚みが 5 mm 以下の場合、バックドアパネルを傷付けるおそれがあります。)



(10) 型紙を取りはずし、印にドリル刃 (φ3) で下穴をあける。

△注意

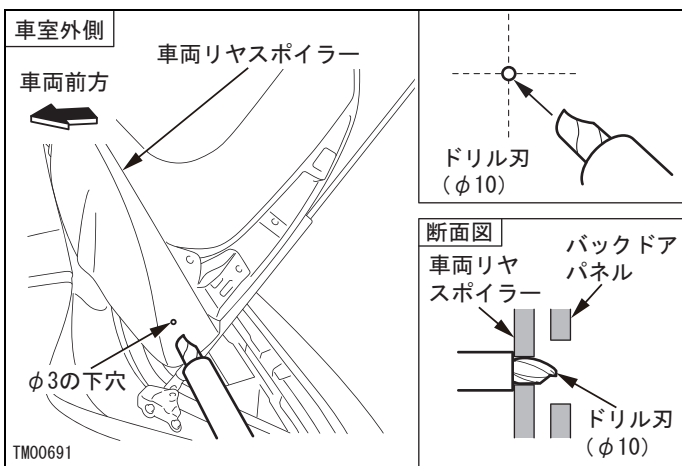
- ・穴あけ作業をする際、ケブラ手袋を着用しないでください。
(ケブラ手袋が回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。)
- ・穴あけ作業をする際、保護めがねを着用してください。
(保護めがねを着用しないで作業をすると、切り粉が目に入るおそれがあります。)
- ・車両リヤスポイラーはバックドアパネルと合わせ、2重構造になっています。2枚のパネルに穴を開けてください。
- ・穴を開ける際、車両リヤスポイラーに垂直に穴を開け、バックドアパネルまで穴を開けてください。
(垂直に穴を開けなかった場合、リヤスポイラーが取り付けできないおそれがあります。)



(11) 車室内側から φ3 の下穴にホールソー (φ20) でバックドアパネルのみに穴をあける。

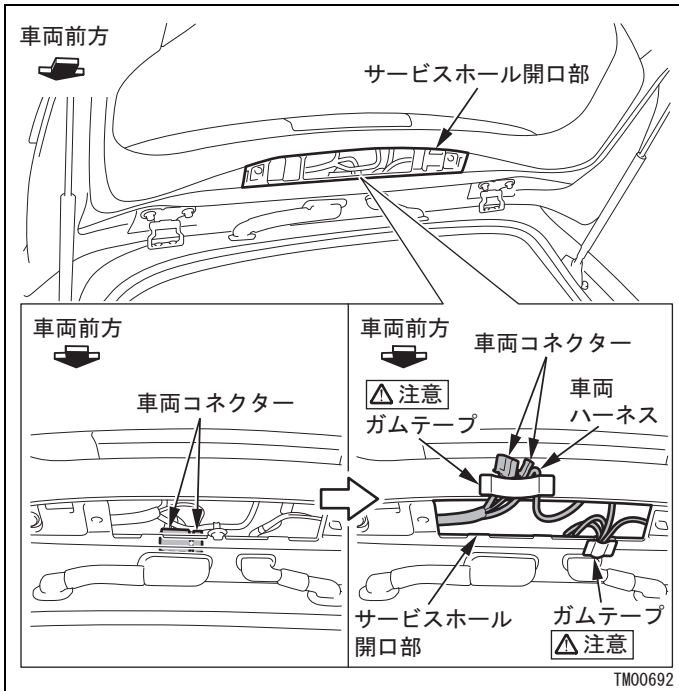
△注意

- バックドアパネルは車両リヤスポイラーと2重構造になっています。バックドアパネルのみ φ20 の穴をあけてください。
(車両リヤスポイラーに φ20 の穴をあけた場合、リヤスポイラーを取り付けできません。)



(12) 車室外側から φ3 の下穴にドリル刃 (φ10) で穴をあける。

(13) φ10 および φ20 の穴に付いたバリをヤスリで削る。

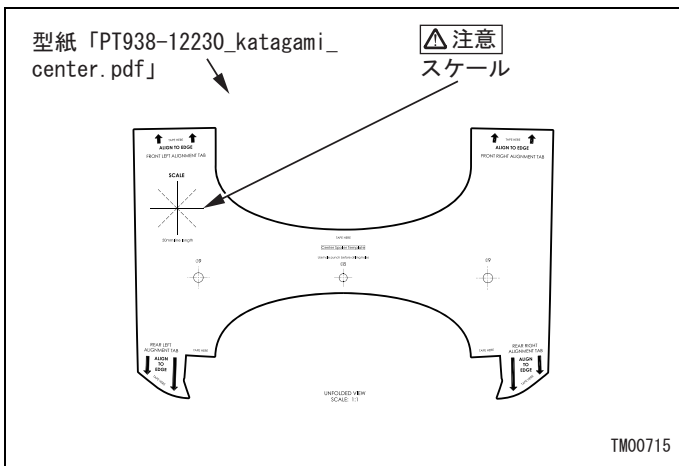


- (14) 車両コネクタ 2 個の接続をはずす。
 (15) 左図のように、車両ハーネスおよび車両コネクタをガムテープで固定する。

△注意

車両ハーネスおよび車両コネクタはガムテープでサービスホール開口部の上下に寄せて固定してください。

(車両ハーネスおよび車両コネクタをガムテープで固定しない場合、ドリル刃が車両ハーネスに干渉し断線するおそれがあります。)



- (16) 型紙「PT938-12230_katagami_center.pdf」を WEB サイトからダウンロードし、拡大・縮小せずに A3 サイズまたは A4 分割で印刷する。

👉アドバイス

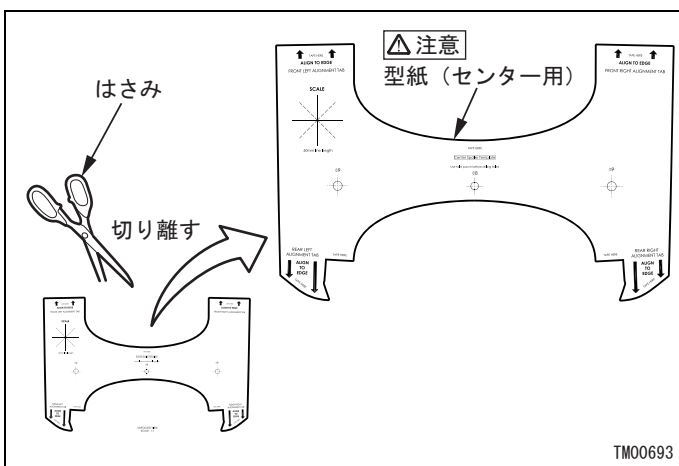
以降の作業は型紙「PT938-12230_katagami_center.pdf」を型紙（センター用）と記載します。

- (17) 印刷後、印刷した型紙（センター用）のスケールを実測し、拡大・縮小されていないことを確認する。

△注意

拡大・縮小された型紙（センター用）は使用しないでください。

[拡大・縮小された型紙（センター用）を使用した場合、穴あけ位置がずれてリヤスポイラーを正しく取り付けることができません。]

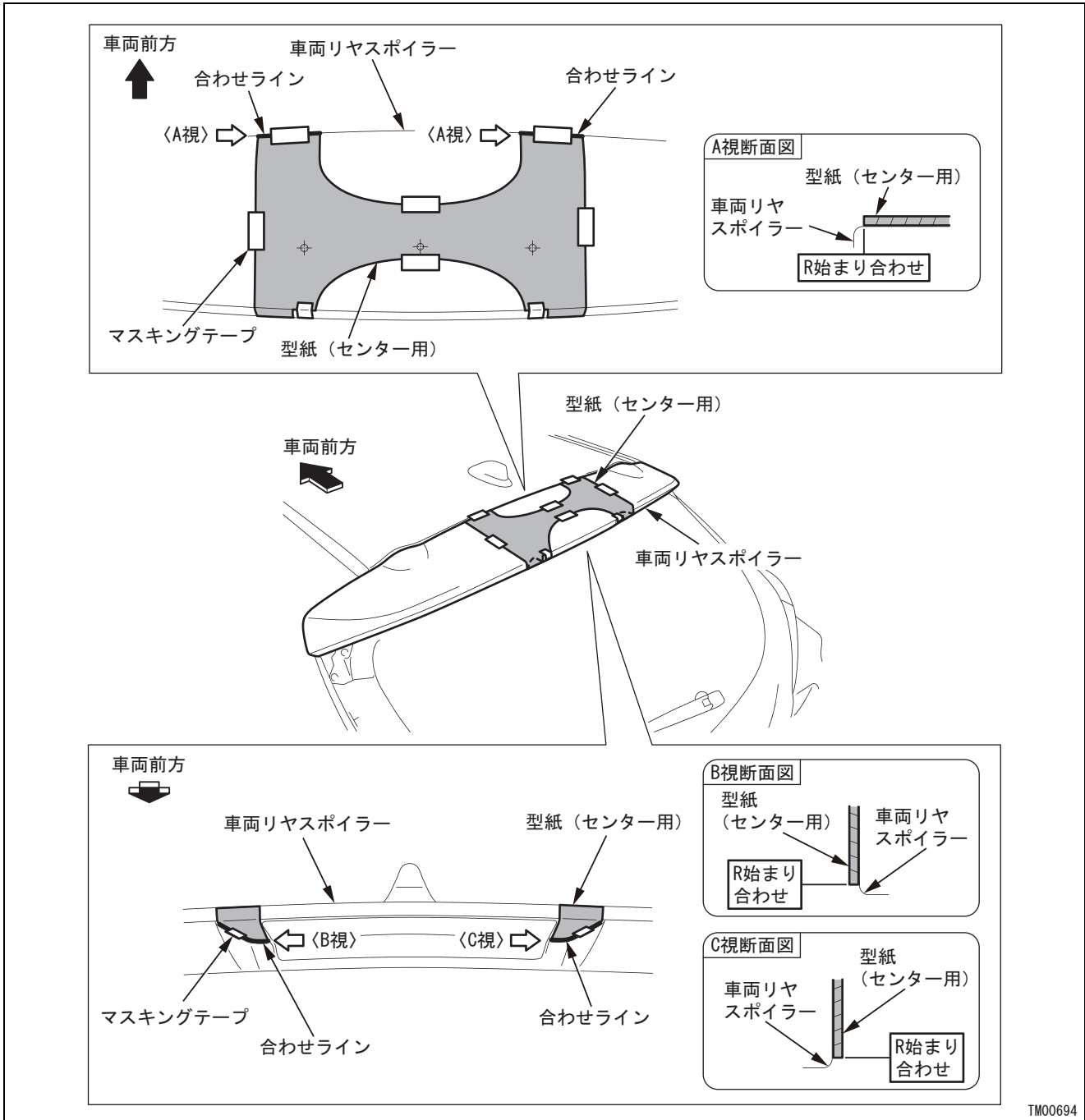


- (18) 型紙（センター用）をはさみで切り抜く。

△注意

型紙（センター用）の枠線が型紙（センター用）側に残るように切り抜いてください。

(枠線が残らないように切り抜いた場合、穴位置がずれてリヤスポイラーが取り付けできないおそれがあります。)



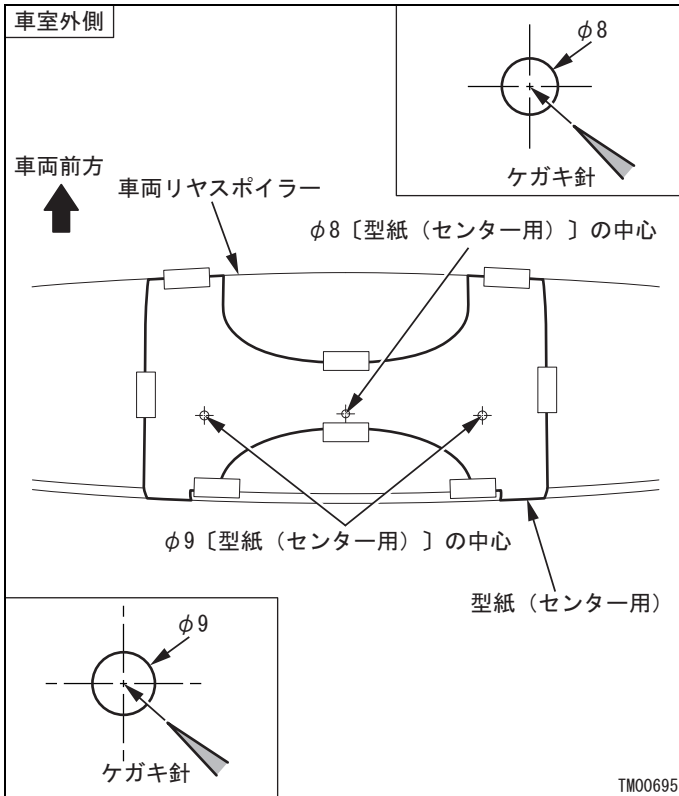
TM00694

(19) バックドアを閉じる。

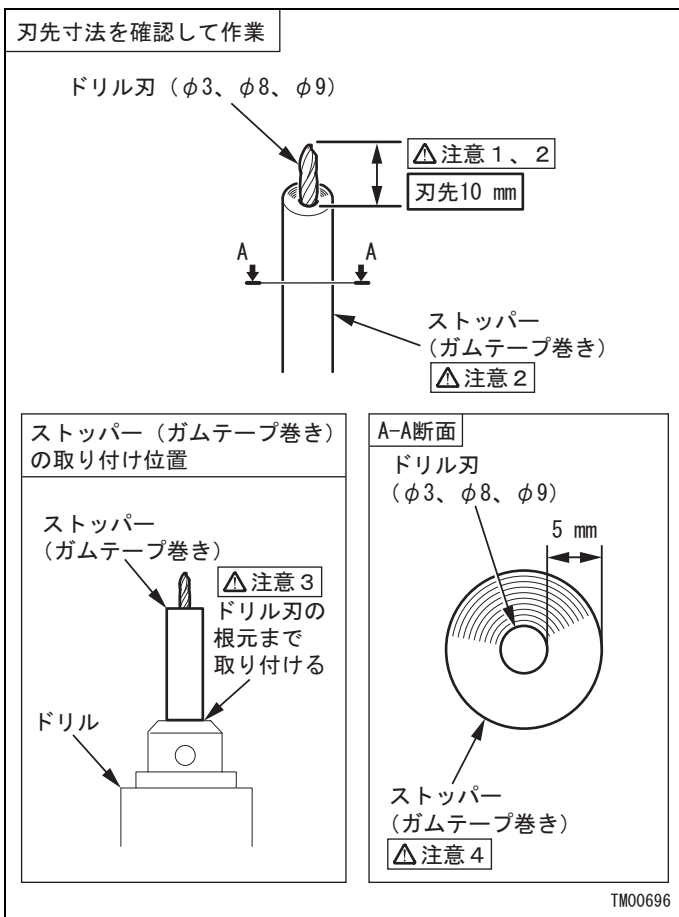
アドバイス

バックドア開口部にビニールシート等を被せたままバックドアを閉じてください。
 (ビニールシート等を被せないでバックドアを閉じた場合、切り粉が車内へ入り込むおそれがあります。)

(20) 型紙 (センター用) を車両リヤスポイラー中央にあてがい、ずれないようにマス킹テープで固定する。



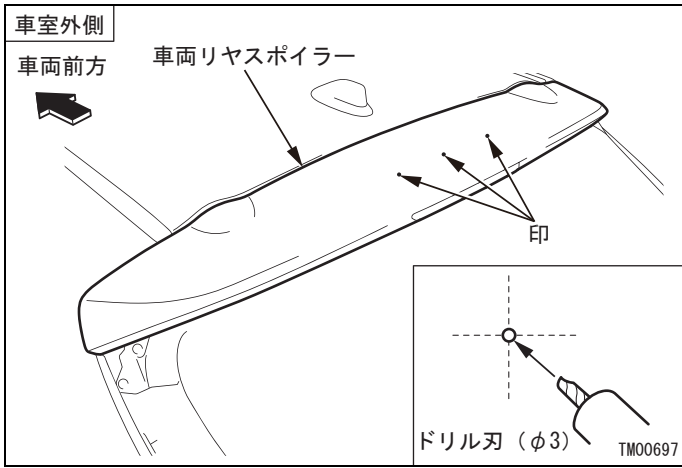
- (21) φ8 [型紙 (センター用)] および φ9 [型紙 (センター用)] の中心にケガキ針で印をつける。



- (22) ストッパー (ガムテープ巻き) をドリル刃 (φ3)、ドリル刃 (φ8) およびドリル刃 (φ9) に取り付ける。

△注意

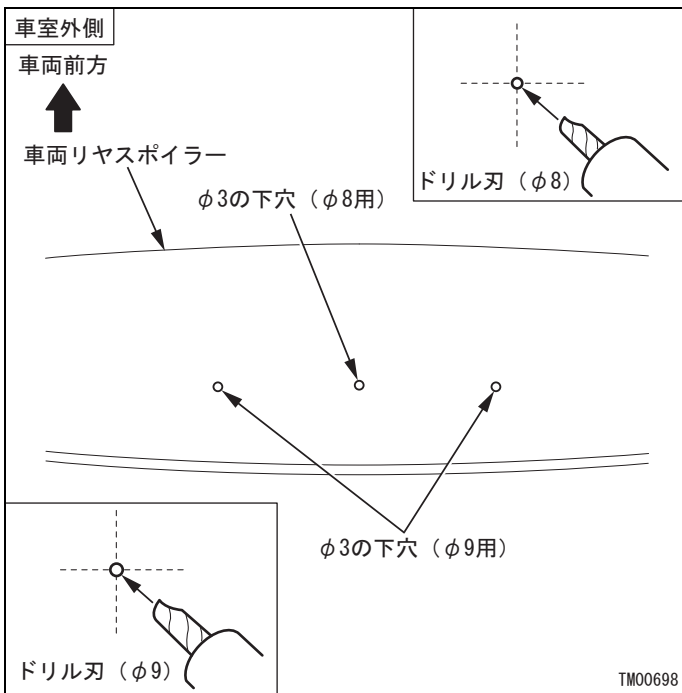
- ドリルで穴あけ作業をする前に、ドリルの刃先が10 mmになるように、ストッパー (ガムテープ巻き) を取り付けてください。
(ストッパーを取り付けずに、穴あけ作業をすると、バックドアパネルを傷付けるおそれがあります。)
- ドリルで穴あけ作業をする前に、ドリルの刃先が10 mm以上になっていないことを確認してください。
[何度も使用している場合、ストッパー (ガムテープ巻き) がたわみ、刃先寸法が長くなりバックドアパネルを傷付けるおそれがあります。]
- ストッパー (ガムテープ巻き) を取り付ける際、ドリル刃の根元まで取り付けてください。
(根元まで取り付けなかった場合、バックドアパネルを傷付けるおそれがあります。)
- ストッパー (ガムテープ巻き) の厚みが5 mmになるように取り付けてください。
(厚みが5 mm 以下の場合、バックドアパネルを傷付けるおそれがあります。)



(23) 型紙を取りはずし、印にドリル刃 (φ3) で下穴をあける。

△注意

- ・穴あけ作業をする際、ケブラ手袋を着用しないでください。
(ケブラ手袋が回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。)
- ・穴あけ作業をする際、保護めがねを着用してください。
(保護めがねを着用しないで作業をすると、切り粉が目に入るおそれがあります。)

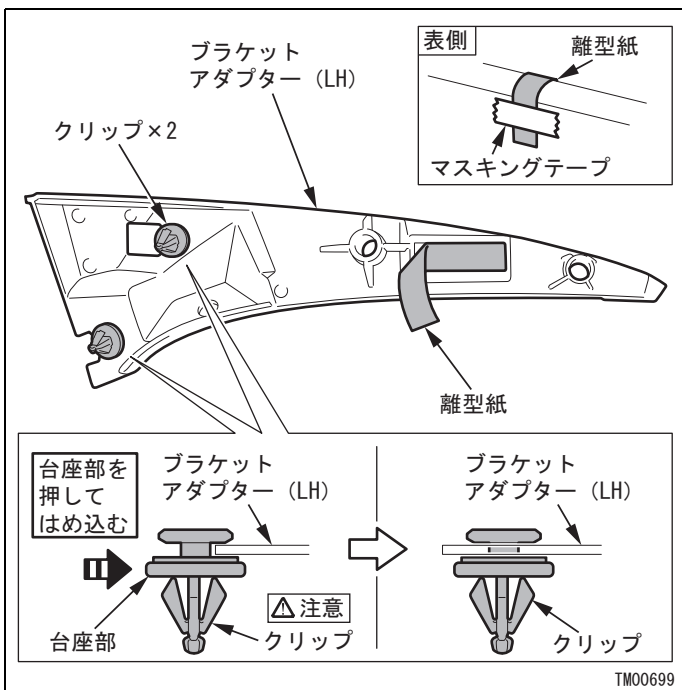


(24) 車両リヤスポイラー中央の φ3 の下穴にドリル刃 (φ8) およびドリル刃 (φ9) で穴をあける。

(25) φ8 および φ9 の穴に付いたバリをヤスリで削る。

△注意

- ・穴あけ作業をする際、ケブラ手袋を着用しないでください。
(ケブラ手袋が回転部に巻き込まれ、けがの原因になります。)
- ・穴あけ作業をする際、保護めがねを着用してください。
(保護めがねを着用しないで作業をすると、切り粉が目に入るおそれがあります。)



4. リヤスポイラーの取り付け

👉 アドバイス

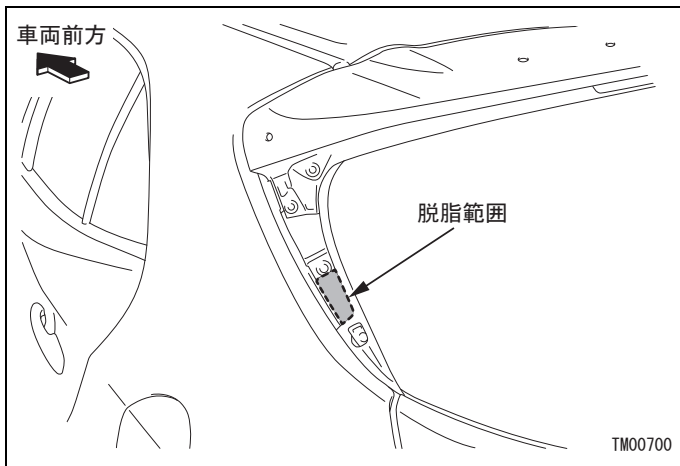
(1) ~ (5) は左側を示しますが、右側も同様に作業をしてください。

(1) ブラケットアダプター (LH) 裏側にクリップ (2箇所) を取り付ける。

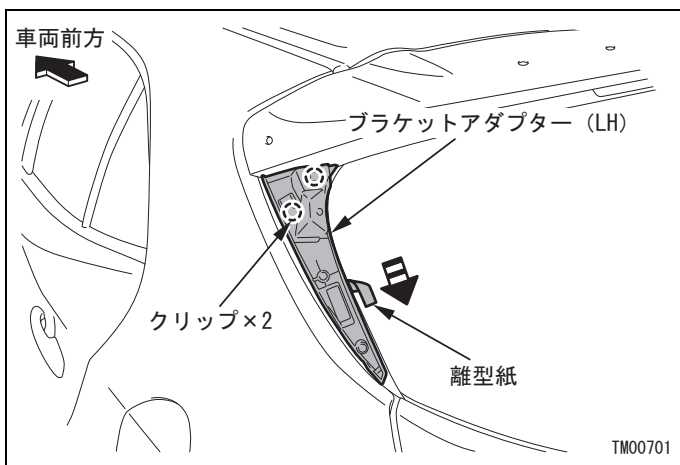
△注意

クリップを取り付ける際は、クリップの台座部を押し付けて取り付けてください。
(クリップの先端部に負荷を加えると破損するおそれがあります。)

(2) 離型紙の先端をブラケットアダプター (LH) の表側に折り曲げてマスキングテープで固定する。



(3) 脱脂剤等とウェスをを使用して左図の脱脂範囲をきれいに拭き取る。



(4) ブラケットアダプター (LH) (クリップ 2箇所) を取り付け、離型紙 (1箇所) を剥がす。

△ 注意

- ・ 気温が 15 °C 以下の場合、両面テープ部または貼り付け位置をドライヤーで人肌程度に温めてから接着作業をしてください。
- ・ 両面テープ部および貼り付け位置を加熱する際は、ドライヤー等を近付けすぎないように注意してください。一部分を集中的に加熱すると、変形・変色のおそれがあります。
- ・ 離型紙を剥がす際、離型紙を破らないようにしてください。
(離型紙が破れた場合、リヤスポイラーを取り付けることができなくなるおそれがあります。)

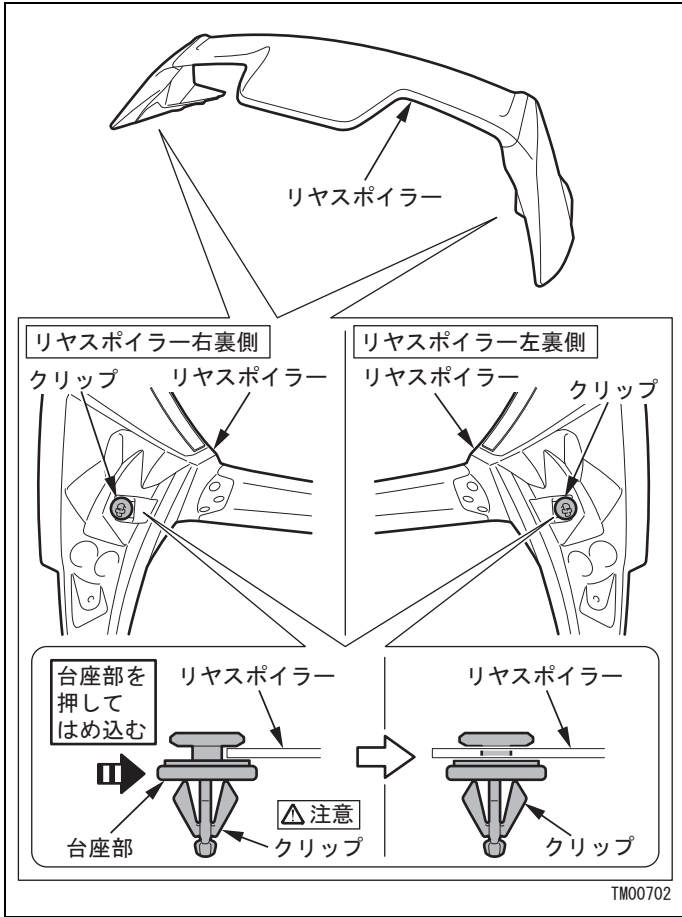
(5) ブラケットアダプター (LH) を圧着する。

△ 注意

こすりつけるような圧着は剥がれや傷付きの原因となるので、上から押し付けるように圧着してください。

👉 アドバイス

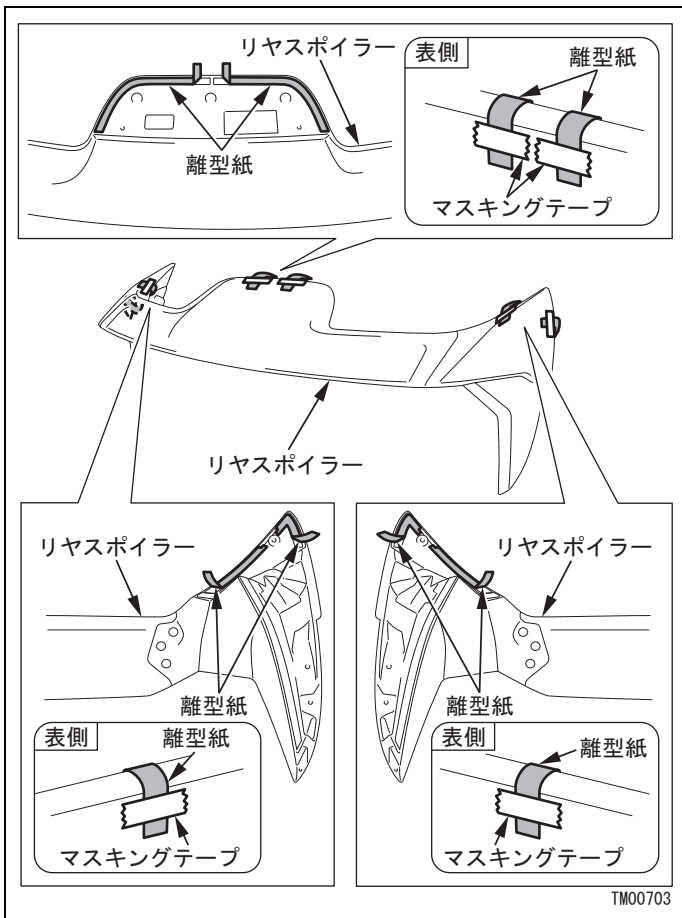
端末部は圧着が不足していると、浮きの原因となりますので、しっかりと圧着してください。



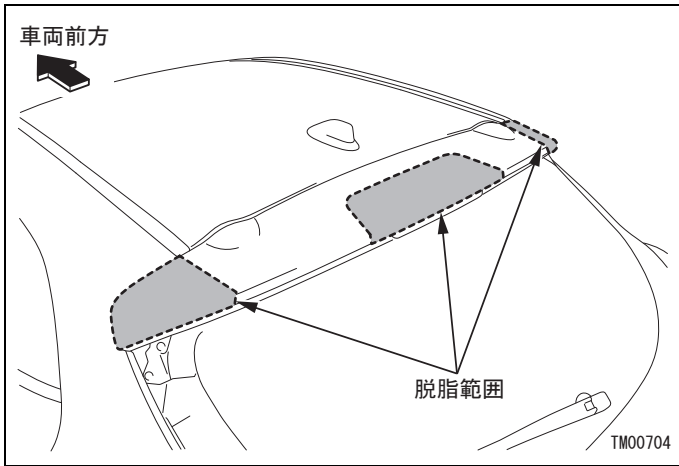
(6) リヤスポイラー裏側にクリップ (2箇所) を取り付ける。

△注意

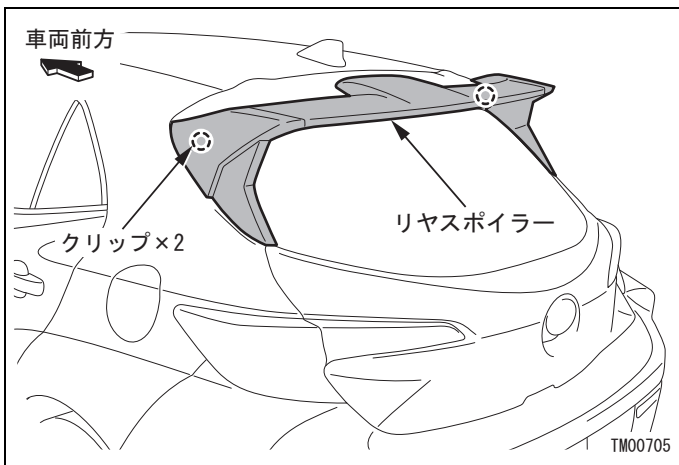
クリップを取り付ける際は、クリップの台座部を押し付けて取り付けてください。
(クリップの先端部に負荷を加えると破損するおそれがあります。)



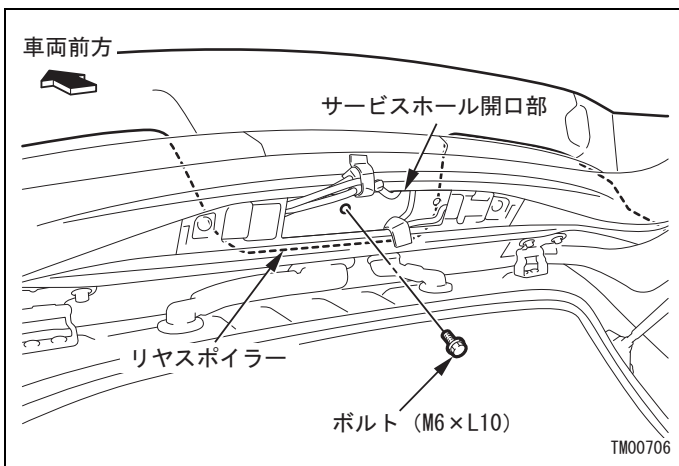
(7) 離型紙の先端をリヤスポイラーの表側に折り曲げてマスキングテープで固定する。



(8) 脱脂剤等とウェスを使用して左図の脱脂範囲をきれいに拭き取る。

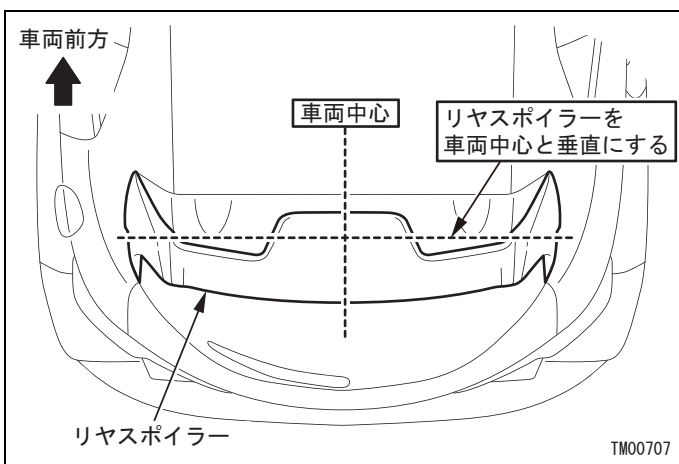


(9) リヤスポイラーのクリップ (2箇所) をかん合させ、リヤスポイラーを仮固定する。



(10) バックドアを開く。

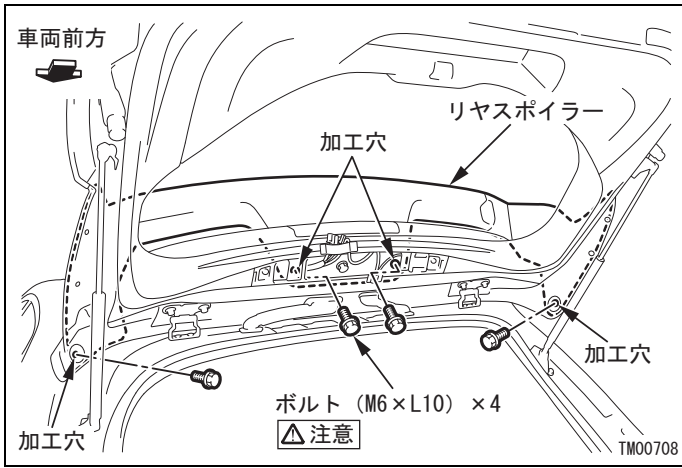
(11) ボルト (M6×L10) 1本をサービスホール開口部から差し込み、リヤスポイラーを仮固定する。



(12) バックドアを閉じ、リヤスポイラーに左右のずれがないか確認する。

△注意

リヤスポイラーにずれがあった場合は、リヤスポイラーを回転させ、車両中心と垂直になるように微調整してください。

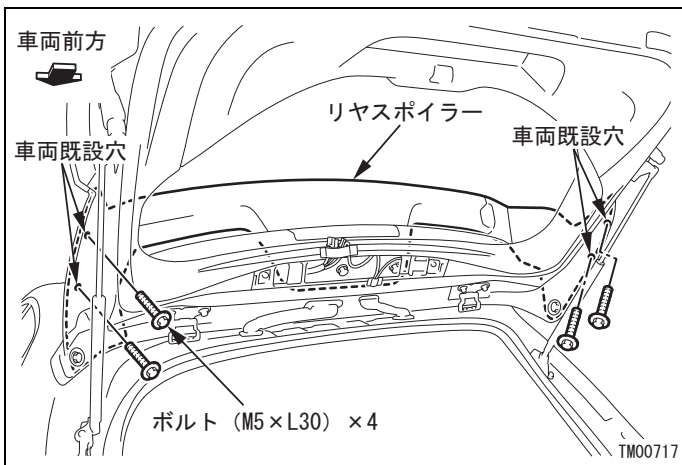


(13) バックドアを開き、ボルト (M6×L10) 4本を加工穴から差し込み、リヤスポイラーに仮固定する。

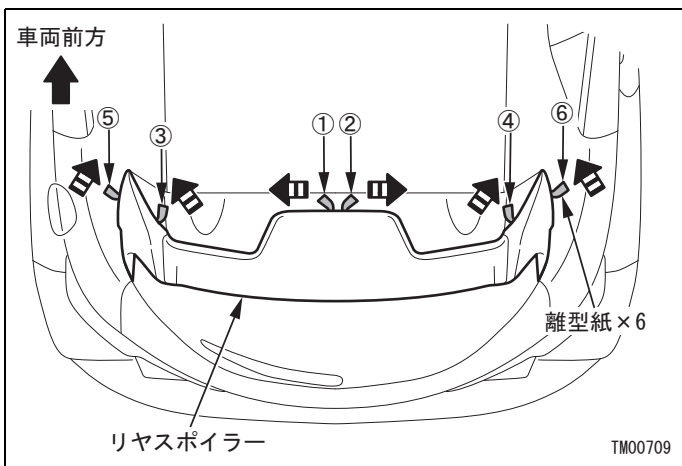
△注意

ボルト (M6×L10) を他の車両既設穴に固定しないでください。

(車両既設穴に固定した場合、リヤスポイラーが取り付けできないおそれがあります。)



(14) ボルト (M5×L30) 4本を車両既設穴から差し込み、リヤスポイラーに仮固定する。



(15) バックドアを閉じる。

(16) 離型紙 (6箇所) を左図の順番で剥がす。

△注意

・気温が 15 °C 以下の場合は、両面テープ部または貼り付け位置をドライヤーで人肌程度に温めてから接着作業をしてください。

・両面テープ部および貼り付け位置を加熱する際は、ドライヤー等を近づけすぎないように注意してください。一部分を集中的に加熱すると、変形・変色のおそれがあります。

・離型紙を剥がす際、離型紙を破らないようにしてください。

(離型紙が破れた場合、リヤスポイラーを取り付けることができなくなるおそれがあります。)

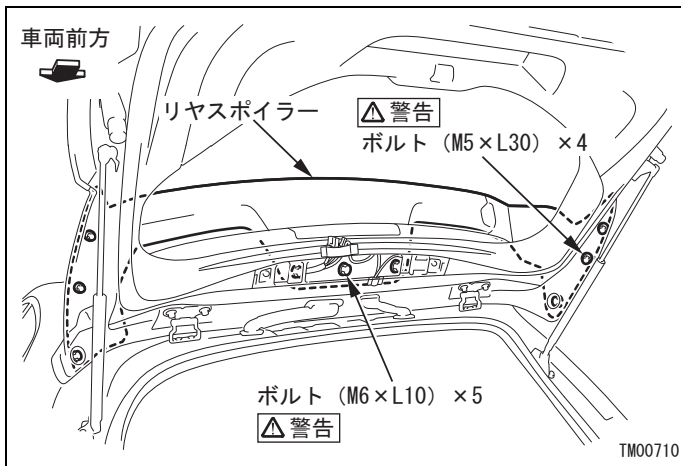
(17) リヤスポイラーを圧着する。

△注意

こすりつけるような圧着は剥がれや傷付きの原因となるので、上から押し付けるように圧着してください。

👉 アドバイス

端末部は圧着が不足していると、浮きの原因となりますので、しっかりと圧着してください。

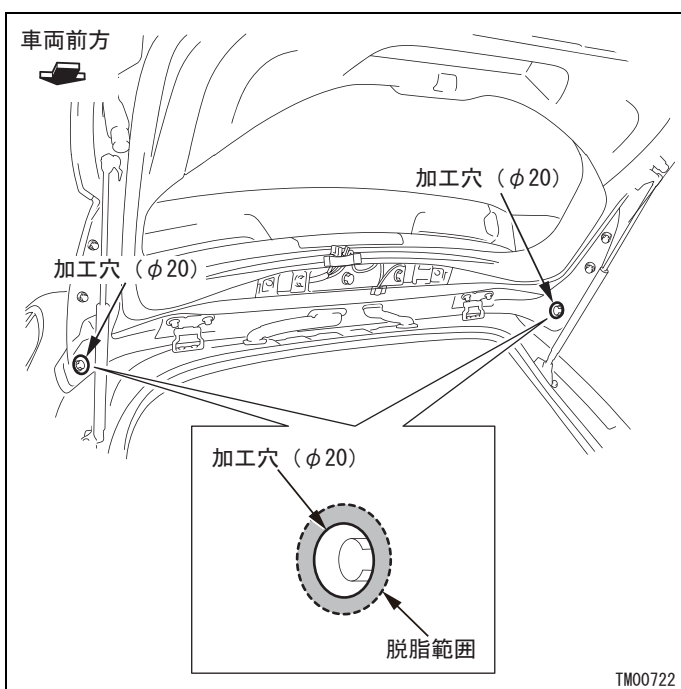


(18) バックドアを開き、ボルト (M5×L30) 4 本およびボルト (M6×L10) 5 本を本固定する。

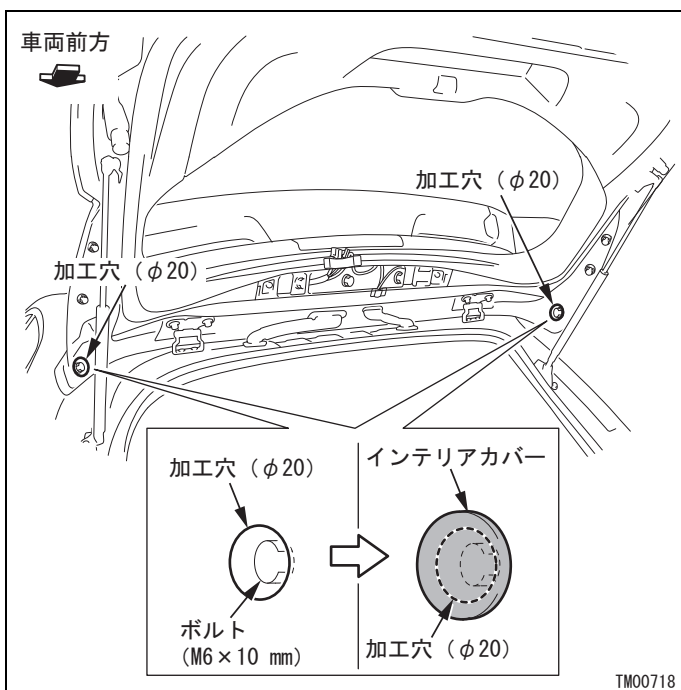
警告

締め付けトルクを厳守して作業をしてください。

- ・ボルト (M5×L30) : 5 N・m
- ・ボルト (M6×L10) : 7 N・m



(19) 脱脂剤等とウエスを使用して左図の脱脂範囲をきれいに拭き取る。



(20) 加工穴 (φ20) を塞ぐようにインテリアカバーを貼り付ける。

復元作業

取りはずした部品を元通りに復元する。

■バッテリー復元時の注意事項

△注意

バッテリー復元作業終了後に、車両システムによっては初期化が必要な部品があります。車両修理書を参考に初期化作業をしてください。

※ 車両システムの初期化には、GTS 等のツールが必要な場合があります。

最終確認

1. リヤスポイラーに浮き、剥がれがないことを確認してください。
2. リヤスポイラーの両面テープが密着されていることを確認してください。
3. リヤスポイラーが車両の中心に取り付けられているか目視で確認してください。
4. バックドアを開けた際、リヤスポイラーが車両ボデーと干渉することなく全開位置まで開き、保持されることを確認してください。
5. 車両ボデーおよび車両部品に損傷がないことを確認してください。

△注意

取り付け後、20分以内は雨、水等で濡らしたり、洗車しないでください。